

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月14日

協議会名:新発田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新潟交通観光バス㈱	大形線 (新潟ー新発田)	・当市のコミュニティバス再編に伴い、地域の利便性を向上させるため停留所の追加及びダイヤの改正を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった。(2/3達成)</p> <p>＜事業の目標＞</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間利用者数を337,000人とする。 (R6)370,940人 → (R7)366,133人</li> </ul> <p>【未達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収支率をR4現況値の77.5%以上とする。 (R6)78.7% → (R7)70.1%</li> </ul> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政負担額を新発田市の負担が発生しないこととする。 (R6)0円→(R7)0円</li> </ul> <p>＜事業の効果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新発田市と市外を結び、通勤通学、買い物、通院等の日常生活行動のための広域的な移動手段を確保することができた。</li> <li>・鉄道等の他モードや他の路線バス等の連絡により、公共交通ネットワークを構築することができた。</li> </ul> <p>＜達成状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間利用者数は、前年度を下回ったものの、目標達成した。</li> <li>・収支率は、目標を達成できなかった。 →利用者数減による運送収入減少(前年度比較:98.2%)及び運行経費の増加(前年度比較:109.9%)により、収支率が低下。</li> <li>・財政負担率は、前年度に引き続き0円で目標達成した。</li> </ul> <p>今後はさらに少子化の影響で学生の利用が減少すると予想されるため、より利便性を向上させる取組を検討する。</p>	・コミュニティバスならびに他系統の路線バスやJRとの接続の考慮、また、沿線の通学通勤利用増など、地域公共交通ネットワークの利便性向上のため、運行事業者とのダイヤ構築を協議していく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新潟交通観光バス㈱	次第浜線 (新発田一次第 浜)	・聖籠町の活性化協議会にて 協議した結果、ダイヤの見直し を行わず、現行のダイヤを継続 することとなった。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 (1/1)  ＜事業の目標＞ 【達成】 ・聖籠町と連携して運行を継続させる。  ＜事業の効果＞ ・新発田市と市外を結び、通勤通学、買い物、通 院等の日常生活行動のための広域的な移動手 段を確保することができた。 ・鉄道等の他モードや他の路線バス等の連絡に より、公共交通ネットワークを構築することがで きた。  ＜達成状況＞ ・次第浜線と当市のコミュニティバスの接続につ いて、通学として利用できるダイヤとなるよう関係 市町村と検討を行った。	・運行事業者及び聖籠町と連携し 利便性を向上させることによって 路線沿線地域に住む人々の通勤 通学、買い物、通院等の多様で 広域的な移動手段として維持を 図る。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月14日

協議会名：	新発田市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
<p>地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)</p>	<p>新発田市においては、市内と市外とを結び広域的な役割を担う広域路線(羽越本線(鉄道)、白新線(鉄道)、大形線(路線バス))を軸に、市域内に広範に鉄道、路線バス、コミュニティバス等により構成される公共交通ネットワークが広がっている。これらの公共交通については、広域路線に通じる幹線路線(コミュニティバス・乗合タクシー)、中心市街地路線(市街地循環バス(あやめバス))が広域路線の支線の役割を果たしている。また、新発田市街地中心部にある新発田駅で結節している。(新発田市地域公共交通計画(以下、「計画」という。)P47～49参照)</p> <p>「新発田市都市計画マスタープラン」では、目指すべき将来の都市の骨格として、新発田市街地中心部を「都市拠点」と位置付けており、地域公共交通ネットワークの構築においては、新発田市市街地中心部、特に、新発田駅を交通結節点として、中心市街地の各公共施設や商業施設、医療機関といった都市機能施設や観光資源への市内外からのアクセス性を確保し、回遊性を向上させることで、都市拠点としての機能を高める方向としている。また、公共交通を取り巻く現状では、高齢化や学校統廃合に伴う児童生徒の通学環境の変化により、自家用車を運転できない高齢者等のいわゆる交通弱者の日常生活の移動手段の確保が求められており、公共交通の必要性が高まっている。</p> <p>このうち、大形線は、新発田市と新潟市を結び、各地域・近隣市町からの利用者にとって通勤通学、買い物、通院等の日常生活行動だけでなく、観光等の多様な目的を果たす上で重要な移動手段となっている。次第浜線は、聖籠町と新発田市を結び、地域住民の日常生活を支える役割を担っている。大形線及び次第浜線は、鉄道や路線バスと結節し、地域住民、近隣市町の利用者にとって欠かせない移動手段となっており、将来に渡り安定した運行の確保・維持を図る必要がある。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持事業により、大形線、次第浜線を確保・維持することが必要である。</p>